

学内 PCR 検査について

学生、教職員の皆さん

今朝の中日新聞のニュースですでに知っている人も多いかと思いますが、至学館大学独自の PCR 検査体制がほぼ整いました。教職員、学生はもちろんのこと、守衛さんやバスの運転手さん等学生との接触の多い関係者にも検査を受けてもらい、より安全なキャンパスを目指したいと考えます。

危険なウイルスを取り扱う検査で慎重さや熟練が必要であることから、一度に全員というわけにはいきません。本当は、一斉検査が望ましいのですが無理をすることは持続可能性や検査の正確さを損なう可能性もあることから毎週一回のペースで200人を基準に順次行います。この順番を決めるに当たっては、コロナ対策チームの外に選考チームをつくりました。外部実習や試合等で陰性証明の必要性、就職活動、実習の性格、ストレス状況等を総合的に勘案しながら、このチームでスケジュールを決定します。一定期間で全員をカバーできる予定ですのでこのスケジュールに協力してください。また、学内でクラスター発生が懸念されるような場合には計画の変更もあり得ることを理解してください。

陽性者が出た場合は、保健所と相談しながら対応することになります。一方、大学独自でできることとして、接触確認アプリで濃厚接触者の可能性が出た人への迅速な検査等必要な対応を行うと共に、自宅待機中の授業欠席に対する補完措置、心理的なケアのためのカウンセラー対応や生活支援等、支えるための最大限の努力をします。学生の皆さんも温かく支え合うキャンパス文化の創造に協力してください。

また、検査体制の構築にあたり、大学内に関係者のためのクリニックを開設します。ケガや病気の診察も可能になります。診察時間、ルールについては、担当から皆さんにおって通知されます。

最後に、検査の導入によって保証されるのは、その瞬間の状態であって、陰性の結果が出ても次の日には感染する可能性があることを決して忘れないでください。つまり、これまでに皆さんにお願いしてきた予防対策は、これからも重要で、手抜きがあればかえって感染の可能性を高めます。検査は皆さんからの積極的な相談や接触アプリと組み合わせることによってクラスターを抑制することには期待できますが、それ自体が予防策ではありません。このウイルスに対して、ゼロリスクはないと思います。

皆さんの努力と協力で、たとえ第三波がきても本来あるべき大学生活を守っていくことが

できると信じます。このコロナ問題がいつまで続くのか予想できませんが、至学館らしいチャレンジ精神と結束力で明るく元気なキャンパスライフを守っていきましょう。

2020・9・9

学長 谷岡郁子